

授業科目名(英文名)	コミュニケーションネットワーク学特論B (Communication Network B)
担当者名	福島 学
学 年	1
教 科 書	適時指示します
目的または到達目標	<p>情報通信技術は、単にデータを装置間で交換するだけでなく、知的コミュニティをサポートする重要な工学技術の 1 つである。しかし、コミュニティを適切にシステムによってサポートするには、システムが適切に状況を把握し、それに応じて動作しなければならない。</p> <p>本講義では、これらのことを踏まえ、現象の計算機での捕らえ方から情報通信としての取り扱いと並行し、コミュニティを構成する重要な要素である人間の計算機での捕らえ方から情報伝播の過程とそこにおける計算機のありかたについて学ぶことを目標とする。</p>
授 業 内 容	<p>第 1 回 ISO7 階層モデル コミュニケーションネットワーク特論 A で学んだ ISO7 階層モデルの復習と特論 B で扱う内容との関係について学ぶ。</p> <p>第 2 回 計算機構成とネットワーク 計算機を構成する 5 大要素を結ぶバスとネットワークとの関係について学ぶ。</p> <p>第 3 回 サーバとクライアント サービスを提供するサーバと、それを利用するクライアントについて学ぶ。</p> <p>第 4 回 仮想化技術 現在ネットワーク分野で基盤技術となった仮想化技術について学ぶ。</p> <p>第 5 回 インターネットとクラウド ネットワークをインターコネクションすることで成立しているインターネットと、クラウドについて学ぶ。</p> <p>第 6 回 モバイルデバイス 可搬型(モバイル)装置(デバイス)と組み込み装置(エンベッドデバイス)について学ぶ。</p> <p>第 7 回 人のコミュニケーションモデル コミュニケーションネットワーク特論 A で学んだ人のコミュニケーションについて復習する。</p> <p>第 8 回 知覚と認知と理解 装置の観測に相当する知覚と、観測値の観測データ変換に相当する認知と、観測データが意味するところを分析するのに相当する理解について学ぶ。</p> <p>第 9 回 知覚特性 知覚特性について学ぶ。</p> <p>第 10 回 認知科学 認知科学について学ぶ。</p> <p>第 11 回 理解と誤解 理解のメカニズムについて誤解という観点から学ぶ。</p> <p>第 12 回 相互補完 誤解の原因でありかつ理解の重要要素である補完について学ぶ。</p> <p>第 13 回 実習1 前半で学ぶシステム要素と後半で学ぶ人要素の相互接続について実習する。</p> <p>第 14 回 実習2 前半で学ぶシステム要素と後半で学ぶ人要素の相互接続について実習する。</p> <p>第 15 回 まとめ 本講義で学んだ事柄について総まとめを行う。</p>
関 連 科 目	コミュニケーションネットワーク特論 A, (学部・情報メディア学科開講科目:インターネット1・2・3・4, 研究ゼミナール, 卒業研究)

受 講 心 得	大学院開講科目のため、学部で学習した内容を復習し理解しておくことを強く薦めます。特に研究ゼミナールおよび卒業研究を通して取得する「自ら考える能力」と「整理し理解する能力」が必要となります。内容に応じて課題および実習があるため、PC でのプログラム作成できることが望ましく、エクセルで関数を使った数値処理が出来ることが必要です。
課 題・質 問 等 の 受 付 方 法	メール、メッセージ、来室のいずれでも受け付けます。
授 業 の 形 式	座学を中心としますが、受講者の理解度によって課題を講義内で行う演習形式を併用します。
履 修 上 の 注 意 また は 履 修 条 件	情報通信技術に関する学部授業程度の内容を理解しておくこと。学部卒業時に作成する卒業論文について理論的な内容の説明が出来ること。
成 績 評 価 の 方 法	出席・課題・レポート等から総合的に判断します。
参 考 文 献 及 び 指 定 図 書	適時指示します。